

地場産業再生 MOT フォーラム

第7回目となる地場産業再生MOTフォーラムを2017(平成29)年2月15日に、滋賀県のシンボル琵琶湖をのぞむホテルで開催した。このフォーラムは、新商品開発への挑戦事例や、MOT(技術経営)をベースにした取り組み事例を紹介し、活発な質疑応答を通じて地場産業再生人材の育成をねらいとしたものである。フォーラムの第一部では、新商品開発の手法のご紹介を主なテーマとして特別講演を企画しており、今回は、伝統工芸「京和傘」日吉屋五代目当主西堀 耕太郎氏に、「伝統は革新の連続 ～和傘の技術で世界へ～」と題して特別講演いただいた。京和傘の伝統技術を活かして開発した独自のデザイン照明開発の実績・経験をベースとして、デザイナーに依存しすぎない商品コンセプト策定プロセスの説明のほか、成功率の高い海外進出を可能にする「ネクストマーケットイン」型と呼ぶ海外市場展開の手法を紹介いただいた。滅び行く伝統工芸を新たな挑戦にかきたてる、西堀氏の海外展開支援プロジェクトに注目してゆきたい。

第二部では、地場産業の活性化に第一線で取り組まれているキーパーソンの方々から、活性化をねらいとした新事業の展開や、新商品開発の挑戦事例を報告いただいた。本学経済学部准教授の竹中厚雄氏はオープンイノベーションを中心に新製品開発の戦略の報告を行った。エスキース株式会社 代表取締役 岡田かつひと氏より、商品コンセプト、企画を1枚のスケッチ(エスキース)に表現することで、関係メンバーのイメージの共有化を促進する手法と開発事例が紹介された。彦根市役所 特別顧問 市川悌二氏からは、彦根の地場産業、バルブ、仏壇、縫製業の活性化について、着眼点と提案施策の説明があった。滋賀県工業技術総合センター 所長 月瀬寛二氏からは、様々な業界の衰退を打破する挑戦開発への支援策の紹介があった。約50名の参加者の方々の真剣な聴講、活発な質疑応答が行われ、充実した MOT フォーラムとなった。



西堀耕太郎氏



会場風景



竹中厚雄氏



岡田かつひと氏



市川悌二氏



月瀬寛二氏



2016年度
滋賀大学 社会連携研究センター MOTプログラム



第7回 地場産業再生 MOTフォーラム

地場産業の活性化をめざした、新商品開発への挑戦事例、MOT(技術経営)をベースにした取り組み事例を紹介します。また、「京和傘」日吉屋 五代目当主 西堀耕太郎氏の特別講演を予定しています。

2017年 **2月15日** (水)

13:00~17:00 (開場12:30)

会場: **大津プリンスホテル 比叡(2F)**
(JR大津駅から無料シャトルバスで10分)

定員: 70名 / **参加料: 無料(先着順)**

(プログラム I)

司会: 滋賀大学 社会連携研究センター 客員教授 山本 卓

- 13:00~ **開会の挨拶** 滋賀大学 理事・副学長 須江 雅彦
- 13:10~ **「伝統は革新の連続 ~和傘の技術で世界へ~」** 伝統工芸「京和傘」日吉屋 五代目当主 株式会社TCI研究所 代表取締役 西堀 耕太郎
- 14:40~ (コーヒーブレイク)

(プログラム II)

司会: 滋賀大学 社会連携研究センター 客員教授 若林 忠彦

- 15:00~ **一般講演**
- 講演 「新製品開発の戦略とマネジメント」** 滋賀大学 経済学部 准教授 社会連携研究センター 副センター長 竹中 厚雄
- 講演 「エスキースから始まる商品開発」** エスキース株式会社 代表取締役 岡田 かつひと
- 講演 「経済活性化に向けた彦根市の新たな挑戦」** 彦根市役所 特別顧問 日本シャトロファ株式会社 取締役 トルコENKA社グループCIMITAS社 アドバイザー 市川 悌二
- 講演 「地場産業活性化支援の現状と未来」** 滋賀県工業技術総合センター 所長 月瀬 寛二
- 17:00 **閉会の挨拶** 滋賀大学 社会連携研究センター長 神部 純一

主催: 滋賀大学 共催: 滋賀県中小企業団体中央会、(公財)慶水学術後援会
後援: (公財)滋賀県産業支援プラザ、滋賀県、近江八幡商工会議所、彦根商工会議所、長浜商工会議所、(一社)滋賀経済産業協会

お申込みは mail、TEL、FAX(裏面)のいずれかでどうぞ。

(文責 客員教授 山本 卓)